

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

秋の深まりと共に紅葉したイチョウの情報が、あちこちから伝わってくる。特に街路樹の多い都市部は音植えられたイチョウな

どの巨木が多く、街全体を黄色に染める風景は外国人旅行者にも大人気。日本の紅葉は、色数も多彩で素敵な観光資源にもなっている。オフコース時代の小田和正さんが歌った「君の嫌いな東京も秋は素敵な街…」は青春時代に東京を訪れてみたいと今でも強く印象に残った歌でもあった。

後立山連峰の山並みも目を追うことに本格的な雪景色になり、木々の葉も「朽葉色」となり落葉するのだが、落葉の多様な色彩はなぜか自然の豊かさを感じる事も多い。幼年期に落葉を拾い集めた思い出も悪いものではない気がする。

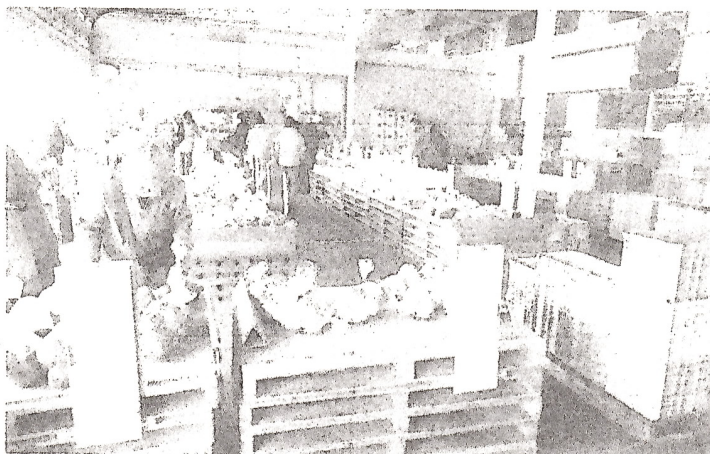
久しぶりに車で出掛ける。長野市に近づくと里山に収穫しない柿の木々。積雪の影響から果樹等の栽培がでない地域に住む私は、気になつてしようがない風景だ。生だと渋みに隠れているが、渋柿の方が甘柿よりも甘みが強いのだと聞いた事がある。多くの家庭の軒先にひもで吊るした渋柿をよく目にするが、甘柿は干しても渋柿ほど甘くならないと聞く。

50度前後になるので雪に閉ざされた地域には無くてはならないものだった。神城地区のほ場の農地所有者が白馬外の農地を譲り受け、その代金として農地を譲り受けたとの話。米に匹敵しないものかと思ってしまう。

地域の食文化の魅力に着目しよう

新型コロナウイルスの感染が「第8波」に入り、インフルエンザの感染拡大も毎日のように情報発信されている。今週、オミクロン株対応の2価ワクチン接種を受け、コロナワクチンの接種は5回目だ。インフルエンザの接種は大町市内の医療機関で既に接種済みだが、これで不安が無いと言えないのも事実だ。国は、コロナワクチンが今後も続くのではないかと、来年度より接種が有料化するとの情報もある。

有料化しても接種しなくてはと考える人も多いのではないかと思ってしまう。平穏な日常が戻る事を祈るばかりだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



長野市篠ノ井の共和園芸農協リンゴ直売場。今年のリンゴの出来の良さがわかる